

2 0 0 4 年 6 月 9 日

株式会社 富士キメラ総研
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5841 FAX.03-3661-7696
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-5614-1078
(6 月 1 4 日以降は 03-3664-5697)

リモートアクセス関連市場調査を実施

- S S L - V P Nは2 0 0 7年度には2 0 0 3年度比5.3倍の見込み -

総合マーケティングビジネスの(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 表 良吉 03-3664-5841)は、業務効率の改善や生産性の向上という観点から、企業規模を問わず求められているリモートアクセス市場について2 0 0 4年3月～5月にかけて調査した。その結果を「2 0 0 4 リモートアクセス関連市場総調査」にまとめた。

リモートアクセスの定義

リモートアクセスとは、インターネットや携帯電話、PHSなどの無線ネットワーク網などを利用して、遠隔地からアクセスを行う事である。今回の調査では、法人向けを対象としており、社内ネットワーク(LAN)にアクセスすることを、主にリモートアクセスの目的として想定している。

< 調査の概要 >

1) リモートアクセス市場の概況

方法としては、ダイヤルアップを行うリモートアクセスサーバ(RAS)やIPsecVPN(*注1)クライアントソフトなどがある。リモートアクセス自体は従来から利用されており、特に新しい技術ではない。しかし、RASは回線速度が遅く回線数に限りがあり、一方IPsecVPNクライアントソフトは設定が複雑といった問題があった。そのためリモートアクセスを利用する企業においても利用者は一部に限られ、一般的に広く普及してこなかった。そこで、これらの問題を解決する方法としてSSL-VPN(*注2)と呼ばれる新たなソリューションが提案されている。

今後は法人向けに無線LANの導入が進み、社内ネットワークにおける「リモートアクセス」が可能になるため、同様にセキュリティや認証も不可欠となる。

このようにリモートアクセスの需要が高まる中、セキュリティや認証、情報システムの構築、運用・管理など解決すべき課題は多い。そのため、リモートアクセス市場が拡大する事によって、呼応してセキュリティに関連する市場も拡大すると考えられる。

(*注1) IPsecVPN (security architecture for internet protocol Virtual Private Network): 通信内容を暗号化し機密性の高いデータを通信する方式

(*注2) SSL-VPN (Secure Sockets Layer-Virtual Private Network): 主としてインターネット上で情報を暗号化するSSLとリバースプロキシ(社内サーバアクセスへの代理を行う)を使用する方式

2) 注目関連製品

SSL - VPN

2 0 0 3年度実績 8億5,000万円 2 0 0 7年度予測 45億円(対2 0 0 3年度比 5.3倍)

SSL-VPNは、ソフトウェアとして2 0 0 0年以前から発売されていたが、2 0 0 2年頃より国内においても製品が登場するようになり、2 0 0 3年6月頃からは本格的にリモートアクセス向けの製品として認知されるようになった。

SSL-VPNの認知度が高まるとともに参入業者も大幅に増加していった。市場は立ち上がったばかりであり、現在ではまだ高価な製品であるため、大規模企業向け製品という位置付けである。

2 0 0 4年より日本語に対応した製品が数多く登場するようになり、市場は大きく拡大していくものと見られる。各社の新製品では更に機能拡張やセキュリティ対策などが搭載されることにより、より勢いが増していくと考えられる。すでにIPsecVPNクライアントソフトによりリモートアクセスを利用していた企業や海外出張者を多く抱える企業などの使用が増加している。

2 0 0 7年頃までは安定した需要があると見られる。更に市場を拡大していくには中小規模事業者に採用されるような製品を開発し提案していかなければならない。一層、利用者のニーズやメリットを見極めた製品の開発が重要となる。

SSL-VPNは、FW(FireWall) / VPNアプライアンスのようにネットワークインフラを提供する製品ではないため、簡単に導入が進む製品ではない。しかし、リモートアクセスのニーズは広く存在していると見られており、SSL-VPN取り扱い事業者、ソリューション事業者、機器供給生産メーカーなど関連業界が連携することにより、更なる発展が期待できる市場である。

電子認証製品

ワンタイムパスワード

2003年度実績 16億円 2007年度予測 25億円(対2003年度比 156%)

アクセスごとに1回しか使用できないパスワード(使い捨てパスワード)を生成する認証製品である。パスワードの生成には、利用者が持つトークンまたはソフトウェアと専用認証サーバとのやり方により以下の3方式がある。

時間同期方式

時間を元に、パスワードを生成する方式。トークンと認証サーバとの時間を同期させる方法

カウンタ同期方式

トークンと認証サーバが独自に持つカウンタを元に生成する方式。認証ごとに1ずつカウンタを加算していく。

チャレンジレスポンス方式

認証サーバから送られてくるランダムなパラメータを元に生成する方式。他の2方式と比較してセキュリティ精度が高い。

市場は、大手企業の需要がほぼ一巡していたことから、2003年度までは市場は緩やかに減少していた。トークンなどを使用せずワンタイムパスワードを利用できる製品が登場し、従来と比較して安価に提供できることから新規需要の開拓が進むと見られる。

今後SSL-VPNを使用しリモートアクセスを行う機会が増えていくことで、セキュリティ対策としてワンタイムパスワードの重要性は増していき、今後市場は拡大に向かうと見られる。

3) リモートアクセス市場の将来展望、今後の課題・問題点

以前からリモートアクセスの際に利用されていたRASやIPsecVPNクライアントソフトにはセキュリティの面などに、それぞれ問題があり、SSL-VPNはその問題を解決可能な事から注目を集めた。SSL-VPNはブラウザさえあればリモートアクセスすることができるためである。SSL-VPNの市場は拡大しており、IPsecVPNクライアントソフトの置き換えとして今後もこの勢いは継続していくと考えられるが、すべてがSSL-VPNに置き換わるという事はないと見られる。

リモートアクセスには利用目的、利用者、利用頻度などにより最適な製品システムを提案することが必要であり、リモートアクセスによりどのようなメリットがあるのかコンサルティングしていく事も重要となる。今後はアクセス制御を行うための認証やセキュリティ対策などを統合的に提案していく力が求められる。

調査期間 2004年3月～5月

調査方法 弊社専門調査員によるヒアリング及び、保有データベースの活用により調査/分析を行った。

資料タイトル : 「2004 リモートアクセス関連市場総調査」
体 裁 : A4判 300頁
価 格 : 97,000円(税込 101,850円)
調査・編集 : 富士キメラ総研 第三研究開発部門
TEL:03-3664-5847 FAX:03-3661-6920
発 行 所 : 株式会社 富士キメラ総研
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル
TEL03-3664-5841 (代) FAX 03-3661-7696
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>